いっしょに行こまい！高校も！

9 月 15～16 日に愛知県刈谷市総合文化センター アイリスで開催の「第 13 回障害児の高校進学を実現する全国交流集会 in あいち」に参加した。それも集会実行委員、そして「全体会」の司会として。この集会について、3 回に分けてレポートしていきたい。

写真は 100 ページの集会資料集。表紙絵「久慈矢空（くじゃく）」の作者は愛知県の酒井宏希さん。この作品は名古屋市の平成 29 年度中区美術展奨励賞を受賞した。資料集には分科会などの報告が詳しく掲載されており、準備のため読んでいるだけで心に迫るものがあった。

15 日朝、新幹線で名古屋、東海道線で刈谷まで行った。集合時間のかなり前に、刈谷に着いた。駅前の「コメダ」で時間調整した。会場のアイリスは、駅から傘なしで行くことができる。刈谷市は財政が豊かな自治体であり、駅前や豪華な会場にも表れている。新しい豪華な会場だが、集会運営にも影響した、融通のきかない施設管理など、ソフト面の課題があるようだ。

さて、集会「全体集会」は 1 時 35 分にスタートした。開会セレモニーとして、実行委員長の佐藤元紀の挨拶などがあり、記念講演へと続いた。司会の私が、寺脇研さんを紹介して講演が始まった。講演については続いてレポートするが、質疑を含め示唆に富むものであった。

3 時 30 分から予定していた分科会は 15 分遅れとなったが、とにかく 1 日目の全体会が終わり、ほっとした。寺脇さんも参加される第 1 分科会に向かった。大野友暉・琢也さん、能美春紀・康子さんが報告。二人の報告は以前聴いたことがある。とりわけ大野報告は、資料集でも感動の涙を流したが、あらためて心にひびくものがあった。質疑も活発に行われた。寺脇さんコメントについても、講演を補足するものでして注目した。記念講演とともに、のちに紹介したい。

分科会後の交流会も、小ホールいっぱいの参加者があり、なごやかな参加者交流の場となった。なんと言っても司会役の大津陽さんの奮闘が目立った。北は北海道から南は沖縄までの参加者を順に大きな声で呼び出し、挨拶してもらう大役である。予定の時間をオーバーするほどの盛会のうちに、交流会は終了した。

今回の集会に参加して感じたことは多いが、障害当事者とその家族の奮闘ぶりには、感心するばかりだった。交流会 1 部の司会･進行役をつとめた能美春紀くんのお兄さん。翌日の全体会の準備でも活躍していたので、思わず声をかけた。大野友暉くんの兄と妹さんも、分科会などで活躍していた。そのほか、大きな声で参加者に呼びかける多くの人たちに元気をもらった。（続く）

（2018 年 9 月 19 日）